

国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス」の開催について

平成27年9月27日
 広域観光・文化・スポーツ振興局

関西では、国内外アーティスト等が地域住民と交流を図りながら制作活動を行うアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の取組が各地で行われています。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向け、アートによる地域活性化の取組を紹介することにより、関西の魅力を国内外に発信するとともに、各地域の文化・国際交流の促進を図るシンポジウムを、下記のとおり鳥取藝住祭と連携し開催しますので、ご報告します。

記

- 1 日 時 平成27年11月28日（土） 13:00～18:15（予定）
- 2 場 所 鳥取県立米子コンベンションセンター 多目的ホール(米子市末広町294番地)
- 3 主 催 関西広域連合、鳥取県 （後援）歴史街道推進協議会
- 4 テー マ 『地域と藝術が生み出すこれからの価値とは』
- 5 内 容
 - 基調講演「『文化的交差点』：地域と藝術が生み出すこれからの価値とは」
吉本 光宏 氏（ニッセイ基礎研究所研究理事）
 - セッション①「アーティストが地域に入ることでもたらす『波紋』」
 - パネラー
カーン・リー 氏（鳥取藝住祭2015 アーティスト、カナダ）
メリー・シャーマン 氏（アートディレクター、アメリカ） ほか
 - モデレーター
中島 諒人 氏（鳥の劇場代表理事）
 - セッション②「街がアートを『育む』ための設計と実践」
 - パネラー
田口 幹也 氏（城崎国際アートセンター館長兼広報・マーケティングディレクター）
ほか
 - モデレーター
野田 邦弘 氏（鳥取大学地域学部教授）
 - セッション③「未来から視る現在：新たな『遺産（レガシー）』に向けた長期的な文化政策とは」
 - パネラー
杉山 道夫 氏（滋賀県立陶芸の森創作研修課長） ほか
 - モデレーター
吉本 光宏 氏（ニッセイ基礎研究所研究理事）

※会場内に、関西各地のAIRの活動紹介を行うコーナーを設けます。
- 6 参 加 者 500人（入場無料）、事前申込（先着）